

I 次の文章を読んで、後の問い(問1～13)に答えよ。(配点 75)

文末表現のゆれ

文章を書く際に、文末をどのように結ぶか、というのは常に大きな悩みの種である。誰でも一度は、書いた文章を少し醒めた目で読み返し、「～である」がやたらに乱発されているのに気がついて、「何を偉そうに……」という違和感を覚え、I にはいたたまれない思いをした経験があるのではないだろうか。

おそらく原因は文章が未熟だから、ということだけにあるのではないだろう。そこには書き手の判断をどのように、あるいはどこまで打ち出していかをめぐる、現代日本語の宿命的な困難が潜んでいるように思われるのである。

たとえば「～なのである」「～なのだ」という断定を「～と思われる」「～と考えられる」などに置き換えてみると、「気が恥ずかしさ」が多少とも減じるような気がするのはなぜなのだろう。自分の見解が一般的な妥当性を持っているかのようによそおうことができ、ひとまず安心するからなのだろうか。あるいはその背後では、主観的な判断と客観的な妥当性との間にいかに折り合いをつけるかをめぐる、ギリギリの駆け引きが展開されているのではあるまいか。おそらくそこで問われているのは、たしかにあるはずの「私」の判断を、あたかもない「かのように」よそおってみせるしただたかな技術なのである。

古文ならば「なり」「たり」あるいは「候」という定型表現で解決していたはずのこの問題は、近代になってなまじ「言(話し言葉)」と「文(書き言葉)」とを一致させようという改革が始まってしまったために、あたかもパンドラの箱を開けたように、一気に表に吹き出してしまった観がある。「～である」を段落の最後の文章だけに使ってみたり、動詞の終止形を織り交ぜてみたり、体言止めを取り入れてみたり、おそらくわれわれは「偉そうに」見えてしまう突出——「私」の判断のロコツな表出——を避けるために、今後もさまざまなシコウサクゴを繰り返していくにちがいない。この問題に関してはいまだ大方の合意があるわけではなく、長い歴史で見れば、「言文一致体」はまだ形成過程にある、はなはだII な文体なのである。

以下本題に入ろう。

実は右の事情は言文一致体でどのように小説をつくっていくか、という近代小説の問題にはほぼそのままスライドさせて考えてみる事ができる。実際には叙述主体である「私」はたしかにあるのだけれども、物語をIII に演出していくために、あたかもそれがなく「かのように」操作する必要にせまられることもある。近代小説をこうした「私」を隠す、あるいは巧妙に打ち出していくための技術の歴史として眺めた時、はたしてどのような風景が見えてくるだろうか。

甲

夏目漱石の『三四郎』(明治四一年)を例に考えてみることにしよう。この小説は漱石が職業作家としてスタートをきってまだ間もない、初期の名作として親しまれている。主人公の三四郎は熊本から上京して帝大に入学するのだが、見るもの聞くものが目新しい東京の風景に圧倒されてしまう。たとえば次のように……。

三四郎が東京で驚ろいたものは沢山ある。第一電車のちん／＼鳴るので驚ろいた。それから其ちん／＼鳴る間に、非常に多くの人間が乗つたり降りたりするので驚ろいた。次に丸のうちで驚ろいた。尤も驚ろいたのは、何処迄行つても東京が無くならないと云ふ事であつた。しかも何処をどう歩るいても、材木が放り出してある、石が積んである、新しい家が往来から二三間引つ込んである、古い蔵が半分取り崩されて心細く前の方に残つてゐる。凡ての物が破壊されつゝある様に見える。さうして凡ての物が又同時に建設されつゝある様に見える。大変な動き方である。

三四郎は全く驚ろいた。

IV

普通の田舎者が始めて都の真中に立つて驚ろくと同じ程度に、又同じ性質に於て大いに驚ろいて仕舞つた。

右の文章から、まず文末表現だけをヒロイ上げてみることにしよう。「うた」で結ばれている場合と、動詞の現在形で終わっている場合とがほぼ半々に入り交じっていることに気がつく。一般的に、「うた」は過去のできごとであることを示す文末表現だが、それだと過去のできごとと現在のできごとが同時に交錯していることになるので、はなはだおかしなことになってしまう。しかしわれわれはさしてそれを不自然には感じない。つまり「(三四郎は) 大いに驚ろいて仕舞つた」という場合の「うた」は過去のできごととしてよりもむしろ、語り手が三四郎の視点を離れて彼を外側から観察し、概括的に説明する三人称的な表現であることのシグナルと見るべきなのだろう。それに対し、「放り出してある」「積んである」「様に見える」といった動詞の言い切りの形は、三四郎にとって東京がどのように見えるのか、という、いわば彼に寄り添った一人称的な視点であると言つてよい。この二つの視点を交互に織り交ぜ、**V**に構成してみせている点に作者のソウイと工夫があるわけである。

乙

この問題はミニチュアのドールハウスやジオラマを例に考えてみると、よりわかりやすくなるかもしれない。

町や村のミニチュアモケイを見る楽しさは、世界をトータルに所有してみたいというわれわれのうちなる欲望に発している。上から立つて眺めると学校や病院の配置を一望できるのだが、それはいわば「うた」に表される統括的な、三人称的な視点である。それに対して見る側がみ込んで、人形の一つ(一人)になつたつもりで広場から時計台を見上げてみる楽しみ方もあるだろう。それはいわば動詞の言い切りの形に代表される、現場の一人称的な視点であると言つてよい。この二つの視点を自由に織り交ぜることによって、われわれは初めて一個の世界をトータルに所有し得たと感じるわけである。

三人称的な視点と一人称的な視点と——おそらくはこの両者をいかに組み合わせるかに言文一致体の「小説づくり」のポイントがあつた。そしてこの場合、要点の一つは文末詞の「うた」をいかにうまく使いこなすか、にあると言つてよい。

たとえばこの点に関して野口武彦は、日本文学にもとまなかつたはずの三人称の概念が近代小説に定着していくプロセスとして、標識記号としての「うた」を興味深く論じている(『三人称の

発見まで』一九九四年)。実は谷崎潤一郎が『現代口語文の欠点について』(昭和四年)という文章の中で、文末の「くた」に思わず「のである」を書き加えてしまいたくなる書き手の心理を問題にしているのだが、野口はこれを取り上げ、そこには三人称と一人称との間の「或る微妙な、いわば危険な関係」があるのだという。たとえば他者の心理を「嬉しかった」と表現すると、なぜそのまま客観的に断定できるのか、という不自然さを打ち消すことができない。そこに話し手の判断として「のである」を付け加えたくなくなってしまふのは、一般的な妥当性と話者の判断とのギリギリのせめぎ合いがあるからなのであって、それを野口は客観世界に主観が介入しかねない、「危険な関係」だっているのである。「嬉しかったのである」という表現は、この場合、アの産物としてあるわけである。

こうした例から浮かび上がってくるのは、日本の近代小説においては、「くた」に表象される「かつて—そこに—あった」世界を提示する視点が不可欠だが、同時にそれだけで作中世界を構成することはできず、背後でそれを読み手に伝えている叙述主体——隠れた「私」——の判断が同時に求められることになるという、はなはだ興味深い事実なのである。

安藤 宏『「私」をつくる 近代小説の試み』(岩波書店 2015年)

※ 問題作成にあたり、本文を一部改変した。

問1 傍線部 a～f の漢字はひらがな、カタカナは漢字に直せ。解答は、解答用紙の所定欄に読みやすいはつきりした楷書体で書くこと。解答番号は 1 ～ 6。

- | | | |
|---|--------|---|
| a | 醒 | 1 |
| b | ロコツ | 2 |
| c | シコウサクゴ | 3 |
| d | ヒロ | 4 |
| e | ソウイ | 5 |
| f | モケイ | 6 |

問2 空欄 I に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。

解答番号は 7。

- | | |
|----------|-------|
| ① 正義感 | ② 満足感 |
| ⑤ 使命感 | ⑥ 高揚感 |
| ③ 気恥ずかしさ | ④ 自律心 |
| ⑦ 気むずかしさ | ⑧ 自立心 |

問3 空欄 Ⅱ に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。
解答番号は 8 。

- ① 重厚
- ② 不安定
- ③ 革命的
- ④ 公文書的
- ⑤ 簡素
- ⑥ 不条理
- ⑦ 合理的
- ⑧ 古色蒼然そうぜん

問4 空欄 Ⅲ に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。
解答番号は 9 。

- ① 效果的
- ② 合理的
- ③ 客観的
- ④ 歴史的
- ⑤ 功利的
- ⑥ 論理的
- ⑦ 観念的
- ⑧ 社会的

問5 空欄 Ⅳ に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。
解答番号は 10 。

- ① しかし
- ② つとに
- ③ ちなみに
- ④ ところが
- ⑤ ただし
- ⑥ むげに
- ⑦ 要するに
- ⑧ ところで

問6 空欄 Ⅴ に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。
解答番号は 11 。

- ① 質量的
- ② 反面的
- ③ 立体的
- ④ 悲劇的
- ⑤ 質料的
- ⑥ 半面的
- ⑦ 身体的
- ⑧ 喜劇的

問7 空欄 ア に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑨のうちから一つ選べ。解答番号は 12 。

- ① 主観的判断をよそおい客観的真実を提示する小説の技法
- ② 身体的な事実の提示と一人称的な思い込みとの駆け引き
- ③ 客観的な事実の提示と一人称的な思い込みとの駆け引き
- ④ 現在の客観的できごとと将来の主観的願望との駆け引き
- ⑤ 過去の歴史的な事実と主観的なできごととの駆け引き
- ⑥ 客観的な真実の提示と一人称的な真理観とのせめぎ合い
- ⑦ 客観的な歴史上の事実と一人称的な判断とのせめぎ合い
- ⑧ 三人称的な事実の提示と一人称的な判断とのせめぎ合い
- ⑨ 三人称的な事実の提示と一人称的な事実とのせめぎ合い

問8 傍線部A「現代日本語の宿命的な困難」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 文章を書くのが不得手であったとしても、「である」「だ」という文末表現で俾そうに書かなければならないというわれわれ現代日本人にとって不可避な問題。
- ② 文章を書くにあたり、「である」や「思われる」、さらには「体言止め」等の多様な文末表現をしなければならなくなってしまったという現代人が必然的に背負うべき問題。
- ③ 古文では「なり」「たり」「候」等の定型表現で解決していたはずのものが、近代以来、文末表現が多様化し自ずと複雑になってしまったという問題。
- ④ 近代以来の「言文一致」運動に関して、現在も国民的合意形成がなされていないため、未熟な文末表現をする人が多いという問題。
- ⑤ 近代以来、「言文一致」という改革によって、「ある」「だ」などの断定的表現を、「思われる」「考えられる」等書き換え、私を隠す必然性が生じたという問題。
- ⑥ 古文では「なり」「たり」「候」等の定型表現で解決していたはずのものが、近代以来、断定的表現を忌避するあまり、現在では婉曲表現の乱用が常態化しているという問題。

問9 傍線部B「あたかもパンドラの箱を開けたように」は、「直喩（明喩）」と呼ばれる表現である。これと同じ表現方法を用いたものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① そのプロレスラーは世界最強であるようだ。
- ② 地球温暖化問題は年々深刻化しているようだ。
- ③ 私が飼っているウサギの白さは、雪のごとし。
- ④ その年の卒業式での答辞はいまや伝説となっている。
- ⑤ 夏目漱石の小説は近代文学の最高峰と言われている。
- ⑥ 『三四郎』の描写にあるように、三四郎は何度も驚嘆した。
- ⑦ 大根おろしを使用する鍋料理は、その白さに喩えて、白雪鍋とも言われる。
- ⑧ 甲子園球場は高校野球の聖地と言われるように、高校球児にとっては憧れの場である。

問10 傍線部C「興味深い事実」にあてはまるものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 「私を隠す」という観点は日本固有のものとして後世に残しておかなければならない事柄であること。
- ② グローバル化が進むなか、主語を必ずしも明示しない日本語が「私を隠す」という独特の文学的表現を發展させてきたという事実。
- ③ 一般的な妥当性と話者の判断とのせめぎ合いの産物として、『三四郎』の「嬉しかったのである」に見られるように、過去形と現在形を見事に折衷させたこと。
- ④ 三人称と一人称との間の「或る微妙な、いわば危険な関係」の結果として、「嬉しかったのである」に見られるように、過去形と現在形を折衷させること。
- ⑤ 日本の近代小説では、「した」という過去形によって表現される視点が不可欠である一方で、それと同時に隠れた「私」の判断によっても小説が構成されていること。
- ⑥ 日本の近代小説においては、「した」という過去のできごとを叙述する必要がある一方で、現在のできごとを無意識に語る隠れた「私」という観点も必要とされていること。

問11 空欄

甲

に入る小見出しとして最も適当なものを、次の①～⑨のうち

から一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 近世文学の文章表現
- ② 現代文学の文章表現
- ③ 言文一致体への迎合
- ④ 言文一致体との乖離乖離
- ⑤ 『三四郎』の文末表現
- ⑥ 『三四郎』の作品世界
- ⑦ シグナルとしての近世文学
- ⑧ パンドラの箱としての近世文学
- ⑨ 夏目漱石が考案した三人称的視点

問12 空欄

乙

に入る小見出しとして最も適当なものを、次の①～⑨のうち

から一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 三つの視点の「危険な関係」
- ② 二つの視点の「危険な関係」
- ③ 現在形と過去形の混合の妙
- ④ 現在形と過去形の混合の罪
- ⑤ 文末表現の不一致による近代文学の混乱
- ⑥ 文末表現の工夫による近代文学の広がり
- ⑦ 日本にはそもそもなかったはずの二人称的視点
- ⑧ 世界を包括的に捉えたいという人間の根本的欲求
- ⑨ 谷崎潤一郎が問題にしていた一人称的叙述の欠点

- ① 現在形と過去形とを混在させる日本の近世文学に特有とされている技法は、現在でも非常に高く評価されているが、『三四郎』において如実に示されているように、夏目漱石から多大な影響を受けている。
- ② 三人称的な視点と一人称的な視点を使い分ける現代日本語の文末表現は、明治以降の「言文一致」に悪戦苦闘する、近代文学の巨匠による産物であり、現代日本人の文末表現にも絶大な影響を与えている。
- ③ 近代日本の作家によって「言文一致」の問題は、ある程度、解消されたものの、小論文やレポートを提出する際、高校生や大学生が文末に「だ」を多用するのは、ひとえに現代日本人の文章表現能力の低下に起因している。
- ④ 近代以降、「である」「だ」の単調な文末表現に嫌気がさした日本人たちは、小説家がい始めた「思われる」や「考えられる」の文末表現を模倣し、そのことによって現在の国文法の基礎が成立した。
- ⑤ 日本では近代以降、「である」「だ」の単調な文末表現の弊害を理解できなかった一般国民たちは、「思われる」や「体言止め」を含めて小説家が多種多様な文末表現をしたことに影響され、それらを模倣することによって、現代の国文法の基礎が成立した。
- ⑥ 常識的に考えれば奇妙であることを承知しつつも、夏目漱石が『三四郎』において現在と過去のできごとを同じ時制によって描写するのは、「言文一致」体の有用性を国民に示す意図があったからである。
- ⑦ 『三四郎』において、現在と過去のできごとの双方を文体として同じ時制で書けば、現在と過去のできごとが交錯していることになるため、不自然であることを承知しつつも、あえて後者を現在形で叙述したのは、「言文一致」体を有効に用いるためであった。
- ⑧ 『三四郎』の引用箇所において、現在形で書かれた文末表現が五箇所であるのに対して、「過去形」は六箇所であることから、夏目漱石でさえ「一人称」と「三人称」のバランスについて相当苦慮していたのを看取することができる。
- ⑨ 谷崎潤一郎が指摘する文末の「くた」を「くたのである」と書いてしまいたくなる書き手の心理を、野口武彦は『三人称の発見まで』の中で取り上げつつ、一人称的視点と三人称的視点の問題について論じている。

Ⅱ 次の文章を読んで、後の問い(問1～13)に答えよ。(配点 75)

9・11

二〇〇一年九月一日にアメリカ中枢部を襲った同時多発テロは、始まったばかりの二一世紀を暗いものにしてしまった。九月一日には、白い粉の入った封筒がニューヨークやワシントンのメディアや政治家などに郵送されてきた。一〇月にも白い粉は送りつけられ、炭疽菌芽胞(菌の胞子)と判明した。それによって最終的に二人が発症し、五人が死亡した。

アメリカのみならず世界中がバイオテロの影におびえた。アメリカの同盟国である日本も
I だったし、模倣犯も現れた。筆者の病院にも、しきりにバイオテロや炭疽菌についての情報が関係機関から届けられた。

炭疽菌

「炭疽」とは炭のようなかさぶたという意味で、人や家畜の皮膚の小さな傷口などからこの菌が感染すると、水泡や潰瘍といった皮膚症状が出て黒いかさぶたになる。炭疽菌に汚染された肉を食べると、下痢などの消化管症状が起こる。炭疽菌が肺に入ると、インフルエンザ様の症状を引き起こす。皮膚炭疽症も消化管炭疽症も死亡率はさほど高くないが、肺炎炭疽症は発症すると**コウセイイ物質**は効かず、死亡率が極めて高い。だから、細かく精製されて、気管支の奥にまで届く炭疽菌芽胞は、生物兵器としてテロの**キョウキ**にもなるのだという。

9・11後の一月初旬、仙台での国立病院の学会の最終日、炭疽症の緊急講演があった。目新しい情報は少なかったが、奇妙に思ったのは、講師である。渦中のアメリカの研究者でもなく、日本人でもなく、ロシア人医師であった。なぜ、ロシア人なのだろう？

軍事都市のうわさ

話は一九七九年にさかのぼる。一〇月、当時の西ドイツ、フランクフルトの新聞が亡命ロシア人の間のうわさを報道した。その年の四月から五月にかけて、ソビエト連邦ロシア共和国の**スヴェルドルフスク**で生物兵器工場からの漏出事故があり、**四〇人以上**が死亡し、**ソビエト軍**が**ケンエキ**をしているという。

スヴェルドルフスクは首都モスクワから一四〇〇キロメートル東のウラル山脈のふもとの街で、ソビエト時代は人口一〇〇万人を超えた軍需産業のメッカであった。大砲やロケットだけではなく、核兵器製造にも携わっていたため、ただちに西側の情報機関はスヴェルドルフスクの動向や民情の情報収集を始めた。経緯はもとより、漏出した病原体ないしは毒物は何かと。一九七二年に取り交わされた、生物兵器に関する米ソ協定違反の可能性が取り沙汰された。

甲

CIAや米軍の情報機関は、スヴェルドルフスクの第20病院に、インフルエンザ様の症状の患者がサットウしていたことを探知した。四〇度以上の高熱で突然発症した後、呼吸困難や敗血症で、六、七時間で死亡した。犠牲者はその病院だけで四〇人、街全体では二〇〇人も、一〇〇〇人と

も考えられた。最初の患者発生から六日後、地区の医療責任者から病院に、原因は炭疽菌症の突発だと告げられた。さらに、軍事施設、工場区19の周辺が封鎖され、除染車が配置され、二週間後にはウスチノフ国防相と保健相が訪れたことも、CIAは把握した。ほぼ確実に、協定違反で製造していた生物兵器の事故があったのだ。

一九八〇年三月、ソビエト連邦国営のタス通信は、スヴェルドルフスクにおいて、炭疽菌に汚染された食肉による腸管炭疽症が発生したと報道した。周辺の野生動物や感染が疑われる家畜、それに何百匹もの野犬が処分された。そして、生物兵器云々うんぬんというのは、アメリカの言いがかりだ、わが国に対する心理戦争だと反駁はんぱくした。

九月、科学雑誌『サイエンス』までがこの問題を取り上げた。『ネイチャー』誌と並び称される、世界的な一流科学雑誌である。もちろん、西側の学界も、世論も、政府も、タス通信の説明に
ア。前年末のソビエト軍によるアフガニスタン侵攻と、それに反発した西側諸国のモスクワ・オリンピックのボイコットがあり、東西冷戦の厳しさは増していった。

ゴルバチョフからエリツインへ

一九八〇年代後半、ソビエト連邦の書記長はゴルバチョフの時代となり、ペレストロイカ（立て直し）の合い言葉のもとで、グラスノスチ（情報公開）が進められた。一九八八年四月、ソビエト連邦の前保健次官と二人の専門家がワシントンの科学アカデミーを訪れ、スヴェルドルフスク事件について語った。『サイエンス』に掲載された説明は以下のような内容であった。

X が九六人に発症し六四人が死亡した。生

物兵器で起こるはずの **Y** は発症者がなかったと、一五〇枚の写真を用いて説明した。汚

染食肉は子牛の肉二九トンだった。スヴェルドルフスク周辺の二〇〇地点で野生動物に炭疽症が発生しており、人間にもシベリア潰瘍という **Z** が毎年何十人か起こっている。だから、毎年炭疽症リスクがある二〇〇万人もの労働者に予防注射をしているぐらいだと。

一九九一年二月、ボリス・エリツインがソビエト連邦崩壊後の初代ロシア大統領となった。実際はどうか知らないが、ざつくとばらんなイメージの人物だ。(注一)翌年の米露首脳会談で、ブツシユ

(父)大統領に、あれは生物兵器工場の事故だった、**II** だったのだ。事実であり、まさしく

スヴェルドルフスクは旧名エカテリンブルクで、一八世紀のロシアの女帝エカテリーナ二世にちなんでいたが、ロシア革命後に改名された（現在は旧名に戻っている）。都市名の元となったスヴェルドルフは、スペイン風邪で死んだ若きボルシェビキ（過激派）だ。共産党エリートだったゴウワン知事fのしたことは、エカテリンブルクにまつわるロシア革命のマイナスイメージBの抹殺である。エリツインは命令を下して、最後の皇帝ニコライ二世が、娘のアナスタシアたち家族とともに幽閉されていた館をブルドーザーで壊し、更地にしてしまった。

エリツインが大統領となったロシア連邦は、アメリカの研究者を受け入れ、その調査結果を、一九九四年にまた『サイエンス』が取り上げた。診療録はKGBに押収されていたが、診療受付簿などからの推定で、炭疽症発症者の大部分は生物兵器工場から南東方向のごく狭い角度の範囲内に限

られており、さらに動物で発生した地点も、その延長上にあった。空気感染だった。

亡命ロシア科学者

一九九八年になって、ソビエト連邦崩壊後にアメリカに亡命した、生物兵器製造に携わっていた科学者、アベリックがスヴェルドルフスク事件の顛末を明らかにした。一九七九年三月三〇日金曜日、工場区19にある炭疽菌芽胞乾燥プラント(注二)の技術主任は、詰まったフィルターを取り外したまま作業日誌には記載せずに、メモだけを残して帰ってしまった。交代勤務者は作業日誌に目を通したが、メモには気がつかないままプラントを稼働させた。五、六時間後に作業員が異常に気づき、フィルターを交換した。そして上層部には報告せずに、何事もなかったかのように作業を続けた。かくして、外の大気中に大量の芽胞が飛散していった。

週明けには、プラントのすぐ南東側の陶器工場の従業員が発症し、一週間以内に金曜日の夜勤者はほぼ全員が死亡した。汚染地区はKGBと軍によって統制された。診療録は押収され、死亡診断書には適当な病名が付けられ、死体は化学処理後にマイソウgされた。地区外ではほとんど異変に気がつかなかったという。当初の予想では、発症者の出現は数日のはずであったが、五月中旬まで続いた。これは、炭疽菌芽胞飛散の通告を受けたエリツイン第一書記が、木々や道路、建物の徹底的な洗浄を命じたため、芽胞が再び舞い上がり、感染が長引いたのだという。

前述のように政府は九六人が発症し、六四人が死亡したとしているが、もっと多かったとも言われている。犠牲者五一人の剖検所見の検討では、縦隔(両肺の間の心臓などがある部分)の著しい腫脹と出血、縦隔リンパ節の腫大、大量の胸水がみられ、さらに肺炎や脳炎も認めている。呼吸器からの感染は明らかである。

生物兵器

9・11直後のアメリカでの炭疽菌テロはしばらくしてやんだ。使われたのは兵器レベルに精製された炭疽菌芽胞であり、容疑者の範囲は自ずと狭められていった。二〇〇八年八月、FBIは、捜査が最終段階になる寸前に自殺した、元アメリカ陸軍感染症医学研究所勤務のブルース・イビンズが犯人だと断定した。アメリカ軍も生物兵器としての炭疽菌研究をしていたのだ。

炭疽菌爆弾の投下実験が、第二次世界大戦直後にイギリス・スコットランドのグリユナード島で行われた。結果的に島が菌に汚染され、島内の動物に炭疽症が発生した。一九八六年から島全体の徹底的なホルマリン消毒が行われたが、今なお無人島のままになっている。生物兵器はのっぴきならない環境汚染を引き起こすのだ。日本も生物兵器については無罪ではない。スヴェルドルフスクの施設自体が、旧満州にあった七三一部隊Dのそれを模倣したという。

味方の兵士を傷つけることなく、敵方を病気でやつつけてしまう細菌戦は、ウイルスや細菌などの病原体が知られていない時代にもあった。一四世紀にヨーロッパに壊滅的な打撃を与えたペストの流行の発端は、黒海のクリミア半島にあったジェノヴァの植民市を包囲したタタール人が、自軍の流行病の死体を市内に放り込んだからだ。そこから逃げ出した船が、地中海沿岸のあちこちにペスト菌をばらまいた。新大陸でのアメリカ先住民に対しても、ヨーロッパ人は痘瘡とんそうや麻疹患者の毛布や衣服などを

Ⅲ に渡っていた。

生物兵器が

イ

ことは言うまでもない。本来は人々の幸福のための医学が、核兵器なみの不幸をもたらす軍事技術に使われることは、残念無念を通り越している。生物兵器を用いようとする悪意の国なり集団があるのなら、対抗手段や技術が要る。それには生物兵器を熟知しなければならぬというパラドックスがある。

アメリカ炭疽菌事件の犯人が勤めていた研究所があるメリーランド州フレデリックは緑豊かな田園地帯で、留学時代にドライブで通りかかったのどかな景色には生物兵器を思わせるものはない。あたかも医学や科学技術の持つ^E二面性を象徴しているようである。

小長谷 正明「医学探偵の歴史事件簿」(岩波書店 2014年)

(注一) KGB: 反体制派の監視やスパイの摘発等をおこなうソビエト連邦の秘密警察。

(注二) プラント: 工場施設や機械装置一式。

※ 問題作成にあたり、本文を一部改変した。

問1 傍線部 a～g の漢字はひらがな、カタカナは漢字に直せ。解答は、解答用紙の所定欄に

読みやすいはつきりした楷書体で書くこと。解答番号は

19

～

25

。

a 潰瘍

19

b コウセイ

20

c キョウキ

21

d ケンエキ

22

e サットウ

23

f ゴウワン

24

g マイソウ

25

問2 空欄

I

III

それぞれ一つ選べ。解答番号は **26** ～ **28** に入る語として最も適当なものを、次の①～⑨のうちから

I

① 唯々諾々

② 陰々滅々

③ 虚々実々

④ 奇々怪々

⑤ 是々非々

⑥ 戦々恐々

⑦ 時々刻々

⑧ 三々五々

⑨ 津々浦々

26

II

① 債務者

② 容疑者

③ 被験者

④ 犠牲者

⑤ 債権者

⑥ 製造者

⑦ 異端者

⑧ 当事者

⑨ 第三者

27

III

① 壊滅的

② 恣意的

③ 後天的

④ 慣例的

⑤ 先験的

⑥ 受動的

⑦ 懐疑的

⑧ 意図的

⑨ 即興的

28

問3 空欄

X

Z

①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は **29** に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の

① Xー皮膚炭疽症

Yー腸管炭疽症

Zー肺炭疽症

② Xー皮膚炭疽症

Yー肺炭疽症

Zー腸管炭疽症

③ Xー腸管炭疽症

Yー皮膚炭疽症

Zー肺炭疽症

④ Xー腸管炭疽症

Yー肺炭疽症

Zー皮膚炭疽症

⑤ Xー肺炭疽症

Yー皮膚炭疽症

Zー腸管炭疽症

⑥ Xー肺炭疽症

Yー腸管炭疽症

Zー皮膚炭疽症

問4 空欄

A

一つ選べ。解答番号は **30** に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちから

① 同調する

② 反対しない

③ 共感する

④ 報復しない

⑤ 服従する

⑥ 納得しない

⑦ 信頼をおいている

⑧ 疑念をもたない

問5 空欄

イ

に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちから

一つ選べ。解答番号は

31

- ① 天道にかなう
- ② 人道にもとる
- ③ 天道をおおぐ
- ④ 人道をただす
- ⑤ 天道ときそう
- ⑥ 人道とあゆむ
- ⑦ 天道もしのぐ
- ⑧ 人道もわかつ

問6

傍線部A「経緯はもとより、漏出した病原体ないしは毒物は何かと」の説明として最も適当

なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は

32

- ① スヴェルドルフスクの経度と緯度の正確な位置を知ることが当然であり、漏出した病原体ないし毒物は何かという情報を収集すること。
- ② スヴェルドルフスクの経度と緯度の正確な位置を知ることが当然であるが、それについても漏出した病原体ないし毒物は何かと厄介な代物であるということ。
- ③ 軍需産業の基礎が経糸と緯糸を織り成す繊維産業にあったことは明白であり、漏出した病原体ないし毒物は何かという情報を収集すること。
- ④ 軍需産業の基礎が経糸と緯糸を織り成す繊維産業にあったことは明白であるが、それについても漏出した病原体ないし毒物は何かと厄介な代物であるということ。
- ⑤ 漏出事故についてのいきさつの説明は改めていうまでもなく、漏出した病原体ないし毒物は何かという情報を収集すること。
- ⑥ 漏出事故についてのいきさつの説明は改めていうまでもないが、それについても漏出した病原体ないし毒物は何かと厄介な代物であるということ。

問7

傍線部B「マイナスイメージ」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一

つ選べ。解答番号は

33

- ① エカテリンブルクはエカテリーナ二世にちなんで名付けられたこと。
- ② スヴェルドルフスクはロシア革命後にエカテリンブルクの旧名に戻ったこと。
- ③ スヴェルドルフがボルシェビキだったこと。
- ④ スヴェルドルフはスペイン風邪で死んだこと。
- ⑤ ニコライ二世が娘のアナスタシアたち家族とともに幽閉された館があること。
- ⑥ エリツインが命令を下し館をブルドーザーで壊して更地にしたこと。

問8 傍線部C「容疑者の範囲は自ずと狭められていった」の理由として最も適当なものを、次の

①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 34。

- ① 9・11直後のアメリカでの炭疽菌テロはしばらくしてやんだから。
- ② 使われたのは兵器レベルに精製された炭疽菌芽胞だったから。
- ③ 九月一日には、白い粉の入った封筒がメディアや政治家などに郵送されていたから。
- ④ 一〇月にも白い粉は送りつけられ、炭疽菌芽胞と判明していたから。
- ⑤ 最終的に二二人が発症し、五人が死亡したから。
- ⑥ アメリカのみならず世界中がバイオテロの影におびえ、模倣犯も現れていたから。

問9 傍線部D「それ」の説明として最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。解答

番号は 35。

- ① 炭疽菌
- ② 投下実験
- ③ 炭疽症
- ④ ホルマリン消毒
- ⑤ 無人島
- ⑥ 環境汚染
- ⑦ 施設
- ⑧ 旧満州

問10 傍線部E「二面性」の説明にあてはまるものを、次の①～⑧のうちから二つ、選べ。ただし、二つとも正解しなければ点を与えない。解答の順序は問わない。解答番号は 37。

- ① アメリカ陸軍感染症医学研究所に勤務していたブルース・イビンズが、国家防衛の本務に反して炭疽菌事件の犯人だったこと。
- ② ソビエト連邦のスヴェルドルフスク事件が注目を集める中、アメリカも生物兵器としての炭疽菌研究をおこなっていたことは東西二強の対立そのものを示していること。
- ③ スコットランドのグリユナード島で行われた炭疽菌爆弾の投下実験にみられるように、炭疽菌は人間だけでなく、島内の動物にまで被害を及ぼすこと。
- ④ 日本の七三一部隊が原因となって、スヴェルドルフスク事件の結果を引き起こしたという因果関係を生物兵器開発がもっていること。
- ⑤ ウイルスや細菌などの病原体が知られていない時代でも、ジェノヴァ植民市のペスト流行と、新大陸先住民への痘瘡・麻疹の流行という、新旧両大陸で細菌戦があったこと。
- ⑥ 本来は人々の幸福のために奉仕するはずの医学が、核兵器なみの不幸をもたらす軍事技術に使われること。
- ⑦ 生物兵器を用いようとする悪意ある国なり集団があれば、対抗手段や技術が要するため、生物兵器を熟知しなければならないというパラドックスがあること。
- ⑧ アメリカ炭疽菌事件の犯人が勤めていた施設のあるフレデリックは、緑豊かな田園地帯であるが、そののどかな風景の中に炭疽菌研究所があったこと。

問11

空欄

甲

に入る小見出しとして最も適当なものを、次の①～⑧のうち

から一つ選べ。解答番号は 38。

- ① 情報機関
- ② 緊急対策
- ③ 野生動物
- ④ 偏向報道
- ⑤ 心理戦争
- ⑥ 事故発覚
- ⑦ 西側諸国
- ⑧ 言論統制

- ① 一九八〇年三月、タス通信はスヴェルドルフスクにおいて炭疽菌による腸管炭疽症が発生したと報道し、周辺の野生動物や感染が疑われる家畜や何万匹もの野犬が処分されたというのはアメリカの言いがかりであり、ソビエト連邦に対する心理戦争だと反駁した。
- ② 炭疽菌漏出事故の週明けにはプラントのすぐ南東側の陶器工場の従業員が発症し、一週間以内に金曜日の夜勤者のほぼ全員が死亡したが、地区外でほとんど異変に気づかなかったのは、被害が兵器工場から南東方向のごく狭い角度の範囲内に限られていたからである。
- ③ 一九七九年三月三日金曜日、工場区19にある炭疽菌芽胞乾燥プラントの交代勤務者が、技術主任の残したメモを無視してプラントを稼働させたことがスヴェルドルフスク事件の真相であることを、事件後アメリカに亡命したロシア科学者が明らかにした。
- ④ スヴェルドルフスク事件の犠牲者五人の診療録を検討すると、縦隔の著しい腫脹と出血、縦隔リンパ節の腫大、大量の胸水がみられ、さらに肺炎や脳炎も認められることから、空気感染は明らかである。
- ⑤ 一九九一年一二月にソビエト連邦崩壊後の初代ロシア大統領となったボリス・エリツインが、翌年のアメリカ大統領との会談でスヴェルドルフスク事件は生物兵器工場の事故だったとあっさり認めたのは、彼のざつぐばらんな性格をよく表わしている。
- ⑥ スヴェルドルフスクはウラル山脈のふもとの街でソビエト時代は一〇〇万人を超え、メツカと同じ軍需産業都市に発展し、核兵器製造にも携わっていたため、生物兵器工場から漏出事故があったとの報道がなされると、西側の情報機関は即座に情報収集を始めた。
- ⑦ 黒海のクリミア半島にあったジェノヴァの植民市をタタール人が包囲した際、タタール人が自軍の流行病罹患者の死体を市内に放り込んだのは、病気で敵に危害を与える戦い方を知っていたからである。
- ⑧ 9・11後の一月初旬に仙台で開催された国立病院の学会緊急講演において講師を務めたのは、ソビエト連邦崩壊後の一九九八年にアメリカに亡命してスヴェルドルフスク事件の顛末を明らかにした亡命ロシア科学者である。

問13

本文の表題として最も適当なものを、次の①～⑨のうちから一つ選べ。解答番号は

40

- ① 炭疽菌の悲劇
- ② 協定違反の炭疽菌
- ③ 隠蔽された炭疽菌事件
- ④ 炭疽菌芽胞による細菌戦の末路
- ⑤ 炭疽菌をめぐる医学と軍事技術の境界
- ⑥ 炭疽菌研究を暴露した亡命ロシア科学者
- ⑦ 炭疽菌症の突発から見える東西戦の構造
- ⑧ 炭疽菌事件の衝撃的報道における米ソ間の情報戦
- ⑨ 9・11同時多発テロが誘引した炭疽菌芽胞の軍事利用